

# 健康 ぷらざ

## リウマチ性 多発筋痛症とは

指導：慶應義塾大学医学部リウマチ膠原病内科 泉 啓介／竹内 勤

企画：  
日本医師会

No. 487

### 肩関節の強い痛みが特徴

リウマチ性多発筋痛症は、50歳以上の中高年の女性に多く発症する病気です。「リウマチ」という名前ですが「関節リウマチ」とは違う病気です。「筋痛症」とついていますが、筋力低下や筋の委縮はなく、筋肉というよりも肩関節などに強い痛みがみられます。

ほとんどの方が両肩の痛みを訴えます。また、上腕、太もも、お尻などに痛みを感じることもあり、微熱や倦怠感、朝起き抜けに最低でも30分間肩や股関節の周囲のこわばりが続くのが特徴です。

発症すると特に、腕を上げたり、寝返りを打ったり、起き上がったたりするのがつらくなります。症状は1～2週間程度の短期間で一気に進み、それ以降も続くことが多く、高熱や食欲不振、体重減少、うつ症状などを伴う場合もあります。

### 採血などの 検査で診断

診断のためには、採血を行い体内の炎症反応を示す数値を確認します。場合によってはX線などの画像検査も行い、関節リウマチや膠原病などの他の病気との区別をつけます。

炎症を抑える治療薬を使えば、日常生活を支障なく送ることができますが、治療は長期間にわたるため、副作用が問題になることもあります。

また、日本人ではまれですが、これまでにはなかった頭痛、食事をする際にあごが痛むなどの症状がある場合、失明の危険も伴う「巨細胞性動脈炎」も起こしている可能性があります。このケースでは、別の治療が必要です。



### 他の病気と区別し適切な治療を

この病気は、似たような症状を示す他の病気と区別をつけ、適切な治療を受けることが何より大切です。不調を感じたら、まずかかりつけ医に相談し、必要であれば専門医の紹介を受けましょう。